

アイ

皆様と国会をつなぐ、いそぎ哲史の

[アイ・コネクト]

i-connect



vol. 9

2016. Jan



The Democratic Party of Japan
民主党

発行：民主党参議院
比例区 第14総支部

いそぎ議員
初当選から二年半を振り返り
自らの政策に対する
思いを語る



政治への信頼を 取り戻し

安心して 暮らせる社会 を目指す



当選から全力で駆け抜けてきた二年半。初めての経験が多い中、ひとつずつ確実に自分の中に蓄積してきたと言えないさき議員。どんなことを感じて今後は何をを目指すのか、お話を伺いました。

議員になる前と、実際のギャップはありましたか？

問題を発掘して、改善策を考えて議論する国会のプロセスは、職場の問題点を改善していく**組合時代の活動と非常に似ている**と感じました。その反面、**政治は数の力で動く**ので、テーブルに着くことすら難しく、壁を感じています。組合は「会社を良くする」、国会は「国を良くする」という目標に向かっていて、そこも似ていますが、**権力を持つ立場にないと、ものごとが進められないのが一番大きな違いですね。**

多くの質問に立ちましたが、気をつけていることは？

国を良くするとの視点を持つと同時に、組み立てや表現を工夫して、**国民にわかりやすい議論をするのも国会議員の役割**だという思いが、一年半やってきて芽生えてきました。あえてわかりにくく、**玉虫色で答えることが政府の常套手段**ですが、その中でも**何か実になる発言を取る**ためにどうするかが質問する側のテクニックです。もっと経験を重ねると、そういう技も身に付くと思います。

厚みのある質問にしたいので、普段から党の勉強会などで情報を蓄えています。が、質問者を野球で例えると、私はまだ先発ではなく中継ぎ型でしょう。一度だけ

議員活動報告

6月24日

第189回通常国会
会期延長（95日間）
1月26日から245日
間と通常国会として戦
後最長となりました。

自動車総連政策
推進シンポジウム
2015

8月5日

民主党
オリーブパイ
議員連盟
総会を開催し、
議員連盟として
要請書を
とりまとめ、関係
5省庁に要望。

9月19日

安全保障
関連法案
（安保法制）
可決・成立
政府与党の
ルールを無視した
国会運営の末、
強行採決。

9月27日

第189回
通常国会閉会



国会テレビ中継がありましたね、あれはまさに先発型ですね。予算委員会で、毎回一度は質問に立つようになれば、先発ローテーションに入れたということだと思います。

政策の二本柱に 変化はありますか？

むしろ確信が強くなりました。「経済の中心は、ものづくり産業」というスタンスです。ドイツも国策でものづくり産業を育て、今のポジションを築いてきました。日本もそこを目指すべきだと思います。社会保障は、民主党政権で掲げていたことが安倍政権で放置され、やはり必要だと気づいたのか、最近また浮上してきました。私が掲げた政策は、間違っていないかと思いますが。

ものづくりも社会保障もそれだけで確立する課題ではなく、モノを作るのは人なので、人を作る教育や子育ての問題につながります。社会保障も子育ての観点だと、女性が働きながら子育てしやすい環境を整える、男性も子育てに参加できる職場を作る、お金がかかるから

格差を是正する税制に見直すなど、問題は広範に及び、様々なことをやる必要があると感じています。全部がつながっているし、鶏と卵のような関係だと思います。

産業の活性化のためには、 どんなことが必要ですか？

私は自動車メーカーで、グローバル化の波に触れてきました。2000年代前半までは、海外にモノを売るために、安くすること、コスト削減することに視点が傾きすぎていたのではないかと感じています。今後は、新たな付加価値をつけることで、世界中に日本の優れた製品を提供できると思います。

ひとつのヒントは、スマートフォンです。スマートフォン自体は、パソコンと携帯電話を合わせたもので、新しい技術ではないけど、「あらゆるソフトで生活が豊かにできる」「どう使うかは自分次第」というのが共感を得て、爆発的に広がったと思います。ユーザーが自分好みに仕上げられ、生活を豊かにするものが、今後の商品開発のポイントではないでしょうか。



いそぎ哲史 の政策二本柱

経済のグローバル化が進展する中であって、日本の産業基盤を強化し、国内の雇用確保と生活の安定をめざします。

少子高齢化社会が進展する中で、すべての世代が安心して暮らせる社会保障制度の確立をめざします。



先日のモーターショーでも、各社表現は違えど「ライフスタイルを豊かにします」というメッセージが感じられました。また、車以外のセグウェイのようなものや、お年寄り用の高機能車イスなどの体験ブースが多く、生活に身近なものにシフトしている面白い方向性だと思いました。

自動車関係諸税は、どう なっていくのでしょうか？

2017年4月の消費税引き上げのタイミングが、大きな節目となります。それに合わせて取得税をなくし、軽減・簡素化したかったのですが、抵抗勢力によって環境性能課税が導入されることになりました。ユーザーの立場からは単なる増税なので、「金額は妥当なのか」「納めた税は何に使われるのか」、そういう根本の議論をしていきます。

経産省は、税金を取りすぎると市場が冷え込み、トータルとして国にとってはマイナスになるという危機感を持っています。麻生財務大臣には、「税収に大きな影響を与える自動車関係諸税

10月7日

連合
定期大会
レセプション



10月21日

臨時国会
召集要求

憲法53条の規定に則り野党らで召集を求めるも、臨時国会は開かれず。

11月10日

民主党
政策調査会
役員会

民主党政策調査会副会長、党役員室次長に就任。

11月25日

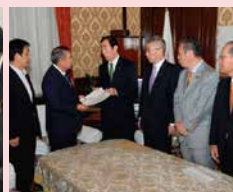
産総研
つくば
センター
視察



11月26日

自動車総連
税制改正要望

国土交通省に自動車関係諸税に関して要望書を提出。



を見直す壁は高いですよ」と宣戦布告されました。景気を活発化させる税制はどうあるべきか、税収と経済の両側面から考えていく必要があると思います。

税金は正しく使われて いるのでしょうか？

税を上げると選挙で不利になるのが政治の世界です。その理由は、**税の透明性がない**ので「何に使われているかわからないのに、また上げるのか」という反感です。税金の使い道の**会計報告は、企業と違ってわかりにくい**ので、民主党はこれを見直すべきだと主張しています。透明化することで、正しいかどうかの議論もできます。

「先進諸国の中で、日本は政治に対する信頼が低い」という調査結果があります。政治が信頼され、税の使い方が明確に見えて、納得できるシステムになつていれば、安心して税金を納めるという**良いスパイラルが生まれる**のではないでしょうか。

北欧は、「高負担・高福祉」で、消費税も25%程と高いですが、教育費や医療

費は無料、老後は施設に入っても無料。払っている**税金が間違はなく自分に返ってくる**という安心感があります。ドイツやイギリスは、「中負担・中福祉」です。

日本は、「低負担・中福祉」でバランスが悪く、**財政が破綻するのは当たり前**と言われています。「低負担？嘘だ」と思うかもしれませんが、GDPに対する税負担の割合を欧米と比較すると低負担です。日本の年金と健康保険は世界に誇れるシステムで、間違いなく中福祉です。しかし、透明性がないから信頼されずに税が集められない。**我々政治家や役所の責任は重大です。**

まだまだ無駄も 多いように感じますが

無駄を見つめる作業をしています、**不透明なので難しい**です。非常に幅広く複雑で、ほとんど手探りに近い状態です。会計検査院は、法律通りに使われているかのチェックはしますが、効率的に使われているかのチェックはしません。企業の観点では、**効率的に使われているのが重要**で、私が

「PDCAが必要」と主張しているのは、その部分なのです。

新三本の矢について、 考えを聞かせて ください

最初の三本の矢は、金融緩和、財政出動、成長戦略でした。一本目の矢は比較的機能しま

議会、政府に対する信頼度

議会		政府	
順位	国名	順位	国名
1	ノルウェー	1	スイス
2	トルコ	2	フィンランド
3	フィンランド	3	トルコ
4	スウェーデン	4	ノルウェー
5	スイス	5	チリ
6	スペイン	6	韓国
7	カナダ	7	スペイン
8	フランス	8	メキシコ
9	イギリス	9	スウェーデン
10	オーストラリア	10	オーストラリア
11	イタリア	11	ニュージーランド
12	ニュージーランド	12	アメリカ
13	オランダ	13	カナダ
14	韓国	14	イギリス
15	メキシコ	15	日本
16	チリ	16	フランス
17	日本	17	オランダ
18	ドイツ	18	イタリア
19	アメリカ	19	スロベニア
20	ハンガリー	20	ドイツ
21	スロベニア	21	ポーランド
22	ポーランド	22	ハンガリー

※対象国OECD34カ国のうち調査結果が公表されている22カ国
出典) World Value Survey Wave 5:2005-2009



したが、二本目は不発、三本目は何をやっているのかわからないという結果だったのだと思います。まずは**PDCAで振り回り**、できたこと、できなかったことを**フィードバックしたもの**が、**新三本の矢であるべき**です。

「強い経済」は、最初の三本の矢を引き継いだ形で、**「子育て支援」と「社会保障」**は、最近注目されている項目を並べただけという気がします。特に社会保障は、政権交代前に**「社会保障と税の一体改革」**で、**民主と自民、公明と三党合意**をして、消費税を上げるけど、社会保障充実の大改革をやる約束したのですから、安倍政権でも最初からやるべきだったのです。民主党が言い続けたのに、テーブルに着かなかった人達が、**三年間も放っておいて何ができるのでしょうか**。ぜひ聞いてみたいのです。

派遣法は、今後どうする べきだと思いますか？

働く側より経営者側の視点に立ちずぎて、バランスが崩れているので反対したのです。経営者が、働いている人をもつて経営すれば問題ないのですが、悪用をし始めれば悪い側面が出てくる。その辺を、**経営者に任せるしかない法律**になってしまいました。

法案は通りましたが、**検討すべき課題として39項目の附帯事項**が付きました。これは前代未聞の多さで、法律の体をなしていると思えません。今後は、ひとつひとつ課題が消えるように審議を進めていくと思います。**働く人の成長・スキルアップ**ということが不透明なので、大きな論点になると思います。

労働基準法の改正には、 どう臨まれますか？

次の通常国会での厚生労働関係は、この議論が中心になると思います。経済を活性化させるために作った法律だと思えますが、**経営者目線が強すぎる**と思います。

私は、裁量労働制という働き方を体験しています。この働き方は、短時間で効率よく働く文化がある職場では**プラスの面が活かされますが、長時間働いている人が評価される職場では、悪い側面しか出てきません。**

だから、**労働時間規制の法律をまず導入**して、長時間労働の是正を推進した上で、この法律に発展させるのであれば導入する意義がある。今の段階でこの法律を導入することには反対、そういう主張をしようと思います。

少子高齢化対策として、どんなことが有効だと思いますか？

問題は少子化で、原因はひとつではなく、解決策も様々だと思います。ひとつは安倍総理も言っている、女性が働きながら子育てできる環境作りです。しかし、**女性だけに焦点を当てていても不十分**です。

一人産んでも二人目、三人目を産まないのは、お金がかかることも大きいですが、子育てが大変だから。**長時間労働の是正**

をすることで、女性も男性も子育ての

時間ができる。そういう環境にしたいです

すね。自らの反省も踏まえてです。

職場の文化も変える必要があります。しかし、それは政治ができることでなく、育児休暇など、会社制度は労使の話し合いですから、「労働条件改善活動は、少子化解決につながります」と、組合にお願いしています。

移民の受け入れは、人口減少を食い止められますか？

ある程度はできる

るかもしれません。

アメリカは移民政策によつて、人口減少が起きていません。ヨーロッパでも、日本に先駆け人口減少が始まった国が、移民を受け入れて改善した例も一部あります。

先日、ドイツのシンクタンクと話したら、「移民を受け入れることで、ドイツ国民が嫌がる低賃金の仕事に就いて、稼いだお金で消費者になつてくれるので、**経済政策と同じ効果がある**」と言われ、こういう考え方もあるのだと衝撃を受けました。しかし

一方で、移民によつて様々な問題が発生するとの懸念の声もあり、やはり**慎重に検討すべき課題**だと思います。

年金制度は、どうなっていくのでしょうか？

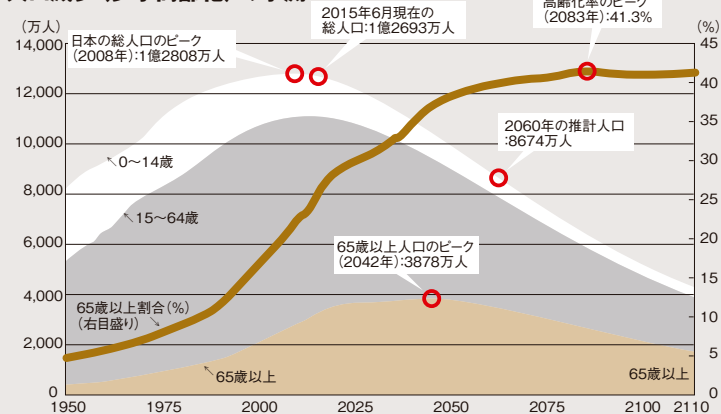
私が若い頃は、趣味にお金を使っていたんですが、今の若い人は「**将来が不安だから貯金をする**」と言うのです。これでは消費は活性化し

ない、景気は良くならない、市場も拡大しない。様々な歪みにつながります。年金保険料の負担額が増えても、**最低限の生活レベルのお金が間違いなく戻る**ということを、政治が示さなければなら

ないと思います。

抜本的な大改革をするために三党合意がされたのに、まったく議論が進んでいません。自民、公明がやっているのは、**支給額を徐々に減らすこと**です。民主党政権が切り込んだのは、別々だった公務員、民間企業の**年金システムをひとつにするなどの抜本的な見直し**でした。それとは別に、現役世代が高齢世代を支える現行方式ではなく、**将来の自分のために積み立てる方式**がいいという議

人口減少（少子高齢化）の予測



論もあります。今後はこの3つの方式を、主に議論していくことになると思います。

今後の目標を教えてください

短期の目標は、労働者に関する法律の阻止、この通常国会で働く人の立場で闘います。**自動車関係諸税と中小企業政策も、すぐに手を付けなければならぬ**ので、現場の実態を把握しながら議論

していきます。

長期的には、やはり社会保障です。年金の3つの方式を、分析や掘り下げをしながら議論していきたいです。産業や少子高齢化も合わせて考えれば、教育にもつながるし、すぐには解決できないので、じっくり腰を据えて、政策に落とし込むための作業をしていきたいと思っています。

まとめ

ご自身の経験から常に生活者の立場で考え、国民にわかりやすく伝えたいというそそ議員。穏やかに語りながらも、熱い思いが伝わってきました。今後もしそそ議員の活動に、どうぞご期待ください。



ISOGABA

いそがば 哲史

2015.7/27~12/23



皆様に会うために、全国を駆け回っています！
各地での各種会合・イベント等74件に参加
しました。国会で53件の訪問を受けました。

新春を寿ぎ、お慶び申し上げます。
昨年来、各地の集会で、安保法制の強行採決の舞台裏と私の所感を述べてきました。国会のルール通りの話し合いを求めたにもかかわらず、政府与党は数の力で強行しました。私は、たとえ同じ結果になったとしても、議論は尽くすべきだったと考え、これからも「議論による闘い」を挑んでいく覚悟です。



参議院議員
いそざき 哲史

本年は、一年半ぶりの国政選挙となる参議院通常選挙があります。18歳、19歳の方々が一票を投じることになる初めての選挙です。
政治への関心が薄いといわれる若い世代でも、やはり心配になるのは自身の生活にかかわること、例えば学費、雇用、年金や医療などの社会保障、そして出産、子育てといったことなどが気にかかるのではないかと思います。
民主党は政権を獲得の前から「コンクリートから人へ」、「チルドレン・ファースト」を掲げてきました。それを真似して、政府与党は「新三本の矢」の一環として「子育て支援」と「社会保障」を打ち出しました。今頃何を言っているのか、という思いもありますが、基本的な方向性は我々が目指すものと似通っています。
せっかく、与党が我々の土俵に上がってきたわけですから、民主党としては、がっぷり四つに組んで、より抜本的な制度改革を実現すべく、堂々と議論していきたいと思っています。
そして、来たる参院選においても、まさにこうした分野を柱とし、「人」の中でも将来の日本を支える「人」である「子ども」に光を当てた政策を前面に打ち出し、闘っていきたいと思います。

今年は、私自身の政策の二本柱のひとつである、自動車関係諸税の軽減・簡素化をはじめとする国内自動車産業の基盤強化は当然のことながら、併せて、もうひとつの柱である社会保障制度改革に、より力を入れた取り組みを続けてまいります。

現場の皆さんの声が私の力になります。引き続きのご指導とご支援をよろしくお願い致します。

最後に、皆様のご発展、ご健勝を祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

謹んで新年のご挨拶を
申し上げます



いそざき哲史事務所
東京都千代田区永田町2-1-1
参議院議員会館1210号室
TEL 03-6550-1210

制作：株式会社アコー

いそざき哲史
の「いま」を
配信中.....



いそざき哲史
公式サイト

isozakitetsuji.com

いそざき哲史 検索

